沖繩集二編

下

へ4
5296
2

へ4
5296
2

早稲田大學圖書館
昭27.3.3受
藏書

沖縄集一編

初

戀人之部

たちのれるきぬ乃袖ふるそなりけり　季連

時ならぬ恋てふことを思ひあまり物思ふ身とは人をこそ思ひ　朝珂

いけのうき草とはいまこそ恋まへ人は見ぬ世ぞ初まれ　盛奎

こゝ初の事ゝの小まはつゝあもゆさこゝぬ人の恋ゝかなし　正全

未練ゝかゝるかこゝろゝ恋ゝて恋れ山路ゝ迷ひ初ん　朝置

まこゝ恋ゝぬ恋れ山路ゝ入ゝあぬ今ゝ迷ハつゝ迷ふ　良政

たまゝゝふあのゝんゝゝ前世恋みゝれ初ゝるゝゝ人ゝ　朝敷

紅ゝゝみゝれぬゝゝとゝゝつゝ孤人ゝゝゝゝゝゝれ　阿波根朝教

見戀

宗睦　全道　賢福　朝邦　唯延　盛奎　朝敷　賢福

祈戀

朝恒　得禮　朝置　盛奎　朝宜　盛英　良政　朝舉　朝教　正全　盛振

阿波根

暁待恋　政起

有明の月の影のもれ入る人と板の戸をもたれ　内間　朝直

通書恋　朝宏

絶えぬ今宵の長いかなるとうり

疑真偽恋　朝置

人をまことを思ひてはこれこそ偽りの文の意をするうり

被知恋　朝邦

絶のなこと世中にうれいの人の袖のたとまさらん

逢恋　朝宏

まくいもあるのれ人をうらい初しん初やとうり初しん

　季連

ゆうとれくるる神をめまてきるあみとまるあみとめ意坂の宮

　政房

ひく計とけくめうとまるとと意死屋くもりひまうり邦

　朝置

意とて考てあ恋恋恋ものあるあ恋恋恋ものあるあ恋恋恋

　朝邦

あいいい

二年まて学ひ[illegible]

[illegible]の住[illegible]

[illegible]人[illegible]又此歌はより[illegible]

あつめけるかるの歌[illegible]

いふせん学ひ[illegible]

みかんとまるかの[illegible]山[illegible]

此はいらしはるあ又机[illegible]

加[illegible]又はみまもみくしたりかい[illegible]

[illegible]

あつめけるまの[illegible]

みくしつ[illegible]

朝常

紙

朝敦

朝邦

由恕

盛英

盛奎

喜重

阿波根

朝教

中[illegible]机はちりは[illegible]

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

山里の[illegible]

[illegible]人のあと[illegible]

[illegible]

[illegible]

日ふるとてくるしきやまとなりひこ　盛元
いとはしてきみ屋とのの日とをつくしたりるとてつりなりの人　朝宜
かりそめ人一なりの恋ふるものはまきれなる恋をするか　知恒
こゝろまきうゑひてゝしてこゝろえきく所まきの身　朝保
きのかをとまきとつくへ人と恋乃山路はそてあるきり
中こゝ恋一まこをまきりくる思ひおとなりへ物こゝろ　朝置
ふるをもうせあ人とおりひまるやうくしまれまきん
中こゝ恋まきんとおりふるもまきうまり人の面こゝ　盛備
あるくまやうんこゝろのとこゝろつゝ人こゝをとい恋一かゝ市主　朝常
中こゝわもれてそあるこゝろ恋ふるはなをそ一ゝ　朝邦
わをいまて身をい恋まきくうの紀人をとふるをけるるゝ市ゝ　政朝

難忍恋

欲絶恋　賢貞
馬上恋　阿波根朝教
名所恋
歳暮恋

冷泉院御時とおりゝてをもくんをまうるゝ
いるをは思てあ人の面新のまをかをまれ事とゝうん
うをねの義ゝもれあ人ゝうをゝはゝるをゝ
暮あ世をもあをてめりのと異所のおをゝうをゝ一かゝん　朝重
いのちをゝゝゝるくゝもをひゝうをゝ系の雅をゝれてたゝもをゝん　朝宏
人をゝうゝ心の弱ゝのゝこを紙密ゝ一てゝうゝをゝ市を
あをゝゝゝをゝいゝうゝうゝ紀せをゝをゝて恋をゝるゝ　盛英
こゝひゝくゝてゝけゝるゝりゝの記ゝをゝをゝをゝをゝをゝ　憲詮
あゝゝのゝをゝゝもゝをゝくゝをゝゝいゝまゝて歌ゝ物ゝりゝゝて年　朝邦
ゝゝゝもゝや著ゝをゝ老ゝくゝん恋のゝもゝゝゝゝゝ　朝保
ゝゝあゝのゝをゝゝゝ洞ゝ川ゝゝくゝゝゝゝゝゝゝ　盛舛

[illegible] 朝宏

春恋 [illegible] 朝重

秋恋 [illegible] 孟宮

冬恋 [illegible] 季連

[illegible] 賢福

[illegible] 正全

[illegible] 良政

[illegible] 紀恭

[illegible] 朝邦

[illegible] 朝保

[illegible] 朝置

[illegible] 盛奎

[illegible] 盛振

[illegible] 内間 朝直

[illegible] 正元

[illegible] 盛登

[illegible] 政起

冬夜恋 [illegible] 賀快

夕恋 [illegible] 朝宏

[illegible] 憲詮

[illegible] 朝邦

[illegible] 朝貫

寄月恋

[illegible] 政輔

[illegible] 李連

[illegible] 朝明

寄雲恋

[illegible] 朝邦

寄山恋

[illegible] 賢貞

[illegible] 正益

[illegible] 盛奎

[illegible] 盛振

寄市恋

[illegible] 政房

寄木恋

[illegible] 有良

[illegible] 朝明

[illegible] 朝摩

[illegible] 朝置

[illegible] 朝常

[illegible] 盛英

[illegible] 正全

寄河恋　朝邦

あま衣のうつりの色の花ならぬ　唯延

ふちよりも深き恋とやいかにせん　賀快

寄橋恋　唯延

あくるみぬ紙をもたらん一夜の恋　季連

寄花恋　賀快

咲花のうつろふよりもまさるらん

うつろひうつろふ色くもりなく　唯延

咲花のうつろひやすき人心　賢福

さく花とあてもまつ人ぞ　紀恭

わきもの思ひのひとしてく　朝珂

かくさりうるものの山ぞ

寄竹恋　盛備

寄艸恋　朝常

寄鏡恋　盛英

寄名所恋　季連

朝邦

季連

朝置

朝重

盛英

賀快

盛英

賀快

武蔵野のあさゆ井のうねくよう思ひそめてあさ恋もする　朝明

恋くてはなれる思ひいたてて山いたてしと人の恋るうれ　賢福

なくさ浦あふくんとるくさあんなるめとまかるうしなし　正益

寄鳥恋

思ひ出の山ともむてふ山ちのたり尾なくしも人とこいて　朝置

中こにやもあかとまの鹿ちくハ鳴く君も恋しなまう城　朝保

恋ゆ恋ハねさあかちゆる巻の月しかれ恋ひ恋ひ　朝常

さてしめる秋みゆ死暁のまろれとその鳴く苦ら赤　朝珂

寄貝恋

あくとめこ恋ふこ恋つるるとひとうしむる月とふあるこまる　盛蟹

寄虫恋

蛍とは鳴ものうしれ月ゆ貝拾ふこ恋ハ鹿ゆ久恋　李連

あまあのつとふ人ひつて恋ちたて鳴きうくちか　外間朝睦

ちりひ行の根とくこ恋あ恋ちうしの恋ひ　朝義

吾妹ゆ鳴ちたちしれ恋ちむしちあ恋ちくちる　朝邦

うさ人の四の秋ちなく恋れちてめる月とつくせん　全道

夕されと草むしここ四恋の恋ちゆ恋ちる恋

秋恋ハ人こ恋ちつきみのむちゆ恋ちうぬ鹿さこ邦

ちりひあまち行ちあ恋ちの出とはこちすちゆ鳴して　嗣職

わちひる行ちあちこちのきちくちをちこのちつ恋ちするか　安通

鹿ちりの人秋ちの月ちの出ちくちかちひ鳴ちちん　正益

こひくてちあちりひハ裏のこの壁一比蓮とひちつくくり　盛備

いたはそうこあうすんまちう恋ハ弟比ちるの月ちゆ弟ゆ　朝要

思ひ弟ハこう恋しちゆ恋ちうしの月ちの月ちゆ弟ゆ　賢福

寄船恋

恋とちう海ちの月ちゆ弟ゆ恋ちうしてちえちうて　朝保

寄風恋　今ちんとちきりし人はとの葉もそをやはしこそとしの風

恋の心をみあらわす中に

今ゆきいかりひつてしてはとそ思そとあり(ハ)いとくまなすありの一ふし　内間朝直

雜

社頭水　神垣とはるくして榊葉はふるあれたる年さ　季連

ふる振神のしたひ波しら沈ふ　阿波根朝教

紀川神のんくもしくもしたしやそとん　盛奎

唐去れ無に記くくひ沈川に記きてんのう沈ふの　朝明

沈ちる市に沈ふのふとハ神のむとう一来ふうん　朝常

神ふれ校ふ市ふもかうう沈河の沼れたくも　盛振

年珍川神代ふくれ流ふて今しやきくふれたる　朝張

年珍川神れ公のふのもハふれくれ世も沈ちうん　全道

ふのもくもふ四ののふくへうう沈ふ川の水れ公沼　朝宜

ふの振神のむふの一年ふうれ和ちん沈ふ沈のふ　正善

平野川水とゝ[illegible]神代より今まなるまで[illegible]　紀恭

[illegible]　知克

紀川神のみ[illegible]　政吏

[illegible]代の若ひまてに住吉の松か神まさりて　季連

住吉大神おはしまつりてく幾世めくん　朝敷

[illegible]　盛英

住吉はひとつの[illegible]その世や松を[illegible]　朝常

[illegible]神のいろ[illegible]住吉のまつ　朝要

[illegible]神のんとこゝろまてとゝ[illegible]松　賢福

[illegible]神代のまゝ久しき住吉乃雲　内間　朝直

[illegible]代とあらそ[illegible]神のまゝくん住吉は松　賢貞

社頭松

吹ちる風は[illegible]神まもりていく世[illegible]くんとゝみゝは　宗睦

住吉はまつの風も神まもりて幾世のかゝる[illegible]　由恕

[illegible]はひとつの[illegible]住吉の神の[illegible]　得禮

[illegible]神代のまゝ[illegible]住吉の松　阿波根　朝教

住吉の神のまふりくいく[illegible]　政房

[illegible]神の[illegible]とひとつ[illegible]　朝宜

[illegible]神代のまゝの住吉の松　真起

神風の中[illegible]の松いくとの幾[illegible]　季連

十[illegible]の花[illegible]大秀の御[illegible]　朝明

[illegible]代のまゝ[illegible]の山松　盛奎

冨士のひとゝ[illegible]の上ゆ雲いはりつゝ[illegible]　朝保

名所松

名所山

冨士

久方の天の橋立とかやいふ名のみ聞しを山　季連

天地のかはるものとも見えぬかな世をすてしかの人の心は　朝範（川平）

遠山如画

満さしの夕日を清く一筆の墨絵とかけり遠の山　季連

あり家のをとこ山まつ夕日さし一画うつしとるとまるる邪　朝置

うすくこく雲もうひきそうゝ画の面影とする加つくしの山　盛英

うつゝくたれ色うすくん久しうの雲をたゝ袋の山　盛奎

久かたの雲井とうつる月なれるかゝるをかしらぬうつゝさの山　賢福

夕日さすかつきの山は面をハ色の名ちをすれ　政房

うゝ色の雲はたくさん似るかこゝきみ〻れ松ハ　有良

山家松風

山行の月をとゝまるとすす高く日くまたゝあまつ風の音　朝昌（金武）

松有歓聲

野ゝきくゝうかき秀代の風代ゝ音のまつ風

（下七）

山家人稀

山ゝ山はひくきまゝと雲のゝ山ゝ見めるゝ居ゝ邪　季連

山里ハとひくる人ゝもまる門の二ゝ杉はもたゝ　盛綱

谷古橋

流くゝ水ゝ流ゝ井ゝ柴ゝ折ゝ橋ゝ我掛ゝ谷ゝ乃板ゝ　季連

山家水

うれとのゝたゝ袖ゝ山里の清ゝ水ゝ結ゝ居ゝ　盛英

書ゝ流ゝ水ゝ流ゝ波ゝ山行の清ゝ水ゝ　朝恒

野ゝ月ゝ見ゝ山ゝ袖ハ月ゝ山の岩ゝ間ゝ清ゝ流ゝ　朝敕

ゝ山ゝ月ゝ井ゝ世ゝ山井の清ゝ水ゝ　朝置

のゝれゝて住ゝ世ゝ住ゝ清ゝ水ゝ　紀恭

世井と言ゝ名ゝ山の清ゝ水ゝ　守敕

入ゝ山ゝ山下清ゝ水ゝ世ゝ流ゝ水ゝ　季連

波ゝ音ゝ人ゝ山ゝ井の清ゝ水ゝ世ゝ　朝保

旅人きてもはうんまう山はあいかくこそすきわたりけれ　朝宏

おのつから掛橋とこそ見えけれかけしら谷のうもれ木　季連

山深き人は行かよはぬ谷ぞなほ苔さびあり苔は板ぶき　盛英

年ふる代まで方いて山里乃ちいふもいとうもいとむ人もなし　良政

我のみとおりし山の奥さまに掛橋　盛奎

まち山は谷の掛橋ふるの年に世ひんたて人はみるもん　宗睦

あ雲の山は奥ふを世界にまりへとかけ橋はをくり　朝昭

雲のかち山ていてもよの中にんとかるはいはりきり　朝重

我山は谷の板ぶいふつまのもと世に掛ぬ屋ゝ　朝舉

まち山は谷のうをたゝ掛しもを義も浮世ようてまり屋　盛振

旅人うんとも志ゝてうをつゝんあやふき掛う谷は板ぶき　盛元

下ノ十二

山深くまち行屋はをたゝ掛ふ谷ぶきをゝ雲人もなし　賀信

あ雲の我山門は世ふつゝ宋い掛くゝを屋ゝ　唯延

濂あ見山行ふゝうをきのゝ世をわるゝ掛ふ谷ぶり　有良

山里はゝち本は橋ふをうつゝ世をいそ谷ふゝ　真甫

海邊眺望

あみの浦風ふゝ日はゝちゝ世をゝみゝ谷ふゝ　朝尊

沖津波ゝ世ゝをゝゝ世和田の系片帆はゝて谷ぶゝみ　季連

磯の浪と馬上眺望

ゝちまゝすゝ海系は波のうゝて浮てゝみゝて谷潜日ゝ　朝常

風ゝ雲いゝ雲ゝ磯は波ゝ波ゝちゝのゝ波ゝ谷ゝ　季連

はゝ弱の四のゝゝに波ゝて谷ゝ世ゝ谷は波ゝ谷ゝ　朝宜

弱ゝ谷ゝ世ゝゝゝ谷ゝ世ゝ谷ゝ亀崖に谷ゝ谷ゝ谷の姿ゝ朝常

のゝゝ世ゝ谷の黒弱ゝ谷ゝ谷ゝ谷

弱とあるやうにかすみこめる山松のうへの月のかげ　朝貫

ゆくえなきあのあこがれのあこがれやあの弱のねぐらいりうん　賢福

くれぬとて弱はいそぎあくがれる山のうつろふ秋の色　朝邦

弱とあるやうにかすみこめる山福ふくしかくさ景はもの　正全

ゆく弱のあゆみも遅くくさかりの海をこの山へのぼりぬ　宗睦

弱とあるやうにかすみこめる山へのぼりぬ　盛英

暮林帰鳥

暮ぬとて鳴うつろふ夕かげつまるたちの村雲　朝置

ねぐらにかへるたちの林にうつる夕かげ　正益

夕日さす山にてむかしを清くあく新をまちうる　朝重

入あの月の弱のぼりとむかしをのうつるやゆく　唯延

夕されば月の山陰にうつろふこの秋　季連

〔下十三〕

晴天鶴

晴ぬとて月の秋空はあらしの雲ぬぐひ　朝保

天はれぬとあるうつろふこの翅はあらく日をなりて　季連

名所鶴

ながめ月清のうつろひ松をなりをなりをなりをなり

海邊鶴

千代鶴人と老をあるうつろふ松をなりをなりをなり　朝珂

きれぬのむかしの友や弱あるあん磯つてあるうつろふ　正全

紅葉は清水の流ながるあるうつろふ神ながらん仏なりうつろふ　朝宜

ながめ月はもとの月はあるうつろふ翅の流れるながめて　季連

おもかげ流いさまとあるうつろふ松ながらの春はあるうつろふ　朝伸

万代は春のながめるうつろふ松ながらの春はあるうつろふ　季連

万代と岩のながめるうつろふ春はあるうつろふ　季連

大空はうつろふ春はあるうつろふ神ながらの春はあるうつろふ　盛英

巖上亀

[illegible] 由想

[illegible] 全道

[illegible] 朝要

[illegible] 盛元

[illegible] 唯延

[illegible] 季連

[illegible] 朝宏

[illegible] 賀快

[illegible] 政起

[illegible] 安吉

[illegible] 賀快

[illegible]

松が梅たる

故郷風

故郷水

故郷草

[illegible] 朝邦

[illegible] 朝重

[illegible] 喜重

[illegible] 季連

[illegible] 朝敷

[illegible] 朝常

[illegible] 正益

[illegible] 盛奎

[illegible] 政起

古戦場

[illegible] 朝重

[illegible] 季連

[illegible] 朝敷

[illegible] 朝常

[illegible] 正益

[illegible] 盛奎

[illegible] 政起

都の陣

[illegible] 季連

稲荷社にまうて

かりそめに神いのりをつとめん月のまことにあらぬ秋なれ　朝明

開居　山深くのがれをむすぶ世の人の四ぬ人をこそうらめ　朝邦

薄暮松風　我山ぬ尾にたちこめし雲あらしの吹ぬ夕ぐれ　盛英

人の心のうきもしらずとひとりて吹もさびしき松のもつ風　朝邦

くれぬとて待こゝろ知らむ雲と松のあらしぬ夕ぐれ　賀雅

和氣清麿　ゆゝしくぬ神のいとをとりて引ぬ人ぬ　朝常

日本武尊　ゆつるぬ人ぬ弟とゐぬ人ぬ　朝保

深草院後の桐壺の巻

桐の葉ぬ月ぬ見ぬ人ぬ　白藏の月ぬ　朝邦

樵夫　この中ぬ名ぬいとぬ楽人と山路とのとりひ分ぬ　季連

遊女　約束のあるぬ人ぬ　良政

いとぬ人ぬ云ぬ恋ぬ　朝置

あぬ人ぬ恋ぬ　朝直

涙の上ぬ　政朝

月ぬ　由恕

人ぬ　盛奎

中ぬ世ぬ　盛英

袖ぬ河ぬ　宗睦

いとぬ結ぬ　季連

白藏主　涙ぬ　朝保

ぬ　朝保

朝邦

内間 朝直

盛英

賢福

阿波根 朝教

唯延

朝敷

由恕

盛振

正全

朝常

喜重

正益

朝敕

朝常

季連

三月廿日原田豊秋・関谷友倩ら船にて別れをしむ

親戚二人もれなく今宵の花を紀念にとて

久米村 純清

三月廿日

ゆんとゝ[illegible]ゝと[illegible]くゝ[illegible]くゝ[illegible]すゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一巻と記しまして乃至八巻振神代のことをのおもて　賀信

いろ〳〵此人の彩を見れば言ふことひとつの文のちやしま　紀恭

あるものあり〳〵あれば言ふ人の紙いろてあり　内間 朝直

いふ〳〵乃世くのすくもとあるかを生れまつの文のちやしま　正元

いふ〳〵此人とものいくちてまたんことをかうかうきを　朝常

きりきりあるふくつきくらるくきん人ハとをあハ浮つて　盛英

きりきりきとさきのあつやくしるかの彩ちのかきうくあらしか　朝宏

雨中待人

古寺嵐

塩屋烟

隱士出山

浦風のはきとしとしたかまのきりハたゆ拙きをあつくる　内間 朝直

行幸まりく者とあをなるく

言る徳の畏は神風伊勢のすくれ記るかの一部まて　季連

あ〳〵雲の山下法の箱弟法まる〳〵清代きりうきあるか

行人ハ世ちりきて行雲の山ハ者のく山とこを存まと　盛英

者の彩をいつるうちして到りの清代ききう山人　冥野湾 朝範

夏山きとをもん人ことの雲とかをていい清代る　内間 朝直

行雲の山分衣めをまて〳〵綿うきあるを清代こ那　朝宏

酒合歓

おりくちちりくのうれかきうくあり者

往事如夢

花のかと我不老の行きのひとをあり今ハこをのあをあり元　朝保

とほのこと路ものとをあり我はくあり我世るくねと　朝宏

親愛友をつとひて言ふをして遊ひるる美ハきるく

さきうれの花きまとみくまるり美や我世の孫るるん　季連

世路如夢

世中とうつりとハきりくとおりのあ人のおりみるるん　朝宏

八四大人七月のきりめ起てまう清りうりあるく

月前思友人といふこころを

ことのそれむかしの友とまちかねて老ぬるかなるとん　季連

あそれかをそのかをそうつるれ月はむかしの影をかるとん　朝置

今宵乃月のそれかのきはむかしの人の影をかなして　正全

あはたまのそのやは月をみるとしすらあれはうきをそ　知恒

つまとせをありとそうにおもふかを月はまたしの　朝常

袁路のをたんとおもふまて心をうる月の影をこそ　朝邦

今宵はいるかをそのやはんあそれてそれ秋のそ月　盛英

かく計をそみまうる月秋中にかるうるこそ　正益

山端のかをそく月はまをそれく秋をふんあをかるしき　朝珂

あるむまをはむかし秋をそあるかをの先とけうる有明の月　全道

久方はそをかれかるかけを月のかをみをかるをかるしき　喜重

をやうるれをそをそをくるをそをそをくるをそをそをくるをそ　盛登

照月のかをけうるをかるをかをのをかやるる人の面影　得禮

あをを人の影をそ月のをそをつをしをの秋をそをそ　由恕

なれ人はをかるをかをかをの人をの影をかをの影をかをの影　賢福

あをき人をそをのををのやをそれをかををかををかををかををかを　良政

をやうるる月をををを

月新のこゝ五八かくるゝの中八たゝぬ人をこゝろうりきり　憲詮
ゝの中にいとをゝ月も三ゝて月と三てくゝるゝつゝ　朝邦
かゝつゝさて流まゝうゝ月乃三八老をうゝかゝ細まゝり　朝教

無常

新嘗の日新もまゝあ月と拝く万代のゝきを心教をゝゝ　政吏
香川大人の忌日ゝ寄歌懐旧とゝ題

まゝこゝゝむゝとゝを忘ちてゝかゝゝ歌ゝこゝ乃ゝ　朝置
宗上實秀ゝ月まゝゝし比寄郭公懐旧とゝ題

ゝゝ大まゝのありゝやいつゝ時ゝるむゝきゝゝゝゝのゝきゝ　季連

冬祝

貢船をゝもいゝ船ゝゝゝ恵のゝゝ世をたゝぬ代を　盛元

祖母の七十賀ゝ

たゝちゝゝ祝のゝゝ母やゝゝ世庭んゝのゝゝまゝていのゝんゝ　朝重

冨川盛奎ゝ母の七十九賀ゝ

たゝちゝゝ祝のたゝゝゝといのゝゝのゝゝかゝゝ乃ゝゝゝ世ゝ　朝保

ゝゝゝ人の八十八の賀ゝ

石ゝゝゝ十二ゝゝゝたゝゝゝまゝゝゝゝゝのゝゝゝ宿ゝ　朝尊

ゝゝゝ世のゝゝゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ今をゝゝゝゝゝゝゝ　朝宏

子日祝

大ゝのゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

九月九日とゝのゝ日まゐりうあるべき時

菊の花ちるまでもかくてをしまばこゝのそぢまでいきぬべしけり　朝重

宜野湾朝保いとかしこき紙筆に東京にをりむきくる

紙一帖日寧旅祝とゝのゝ紙

たかきあるべき時の使れたのたゝひの国の誉も考ることあるべし　朝明

こゝのそのあるべきまでもせくみさかりにいかうてもせ天

こゝにもみゝとまるの旅衣めくるのかゝの霧はかゝゝ　朝昭

あゝなるべき時のみ多数あるべくかゝ恵のあるべきとうゝく　朝置

久方のかまつ月の彩あるべきりみるひい神にもゝゝゝや　正益

月花のかゝるべきまでなく身花のうゝたるそんをや時也天　正全

月のなれえあるべきて切旅はハ主の沙汰ものとゝかりゝん　賢福

あゝたなるべき時のえよまそゝかく雲井の歌をおかるべき　盛奎

高の恋れるべきまでのゝれをそくゝも考る名をやゝゝん

ほゝ恋くるやうゝませゝゝ恋の歌のゝゝゝゝんをかゝ　盛振

けゝるべき時のゝゝゝ旅をれかゝのゝたゝをやゝん　朝常

かゝくゝも神世をやゝゝるゝかゝゝ日の本言くのゝゝ考る　盛英

考ゝかゝものゝまでゝゝゝゝの歌沖縄の名をやあゝん　良政

百代ゝかゝ歌のゝゝんゝゝゝ那をおかゝ考をゝゝく　由恕

国の名をゝゝをゝくあゝゝて時ゝんゝとまゝやゝん

神ゝゝをあゝ世ゝれゝも以前の考ゝたゝひちハのゝゝゝや　全道

考ゝ代ハゝのゝまのゝゝゝゝ身歌の旅をゝ切ゝゝゝ　内間朝直

天地の神ゝゝ神ゝゝゝゝんみゝゝまゝゝの考ゝゝゝ　真裕

[illegible]

ある人の懸烟を祝く　紀恭

寄月祝　今宵をあるの庶こそ思ひ烟と双てやをむ　季連

清涼殿月のかをのをやをは清代のみ名のうつるらん　朝宏

大宮の御代の元號記りて宮月の新乃さやをき　内間 朝直

寄鶴祝　久しきは八重丹をあをの行末をせのあををさこやの　安規

寄道祝　むかしより有しをを人を代を市初ををんをををれ　季連

のかをもをををかこを信山ををのをれををれをを　伊江 朝直

寄船祝　山ををををををの海をををを自は代ををの人をを市を　季連

天を代ををのををて海を貢あやをを新ををを

寄花祝　年月のつをををあ大御代の恵のををを遠を市を海を孟宮

ある人の任官の賀を寄山祝をを

信山のかをををををををを

毋天の六十一の賀を寄松祝

ををををを親のをを世を祝をを　朝保

たをををの世を世の代を代ををを市を　朝宏

海ををを嘉のをを辞をををを　季連

寄酒祝　於を代あををの新をを代の初ををを　大里 朝教

寄玉祝　引をををを世を世ををを　豊見城 朝睦

王政復古　武士の榊の弓を代を東乃を　季連

幸逢太平代　世を平を代を世を代を国を　内間 朝直

はるとき方さやうとゝきあく月花の新すてはるゝ代ハきゝ侍ら唯延
いふ一のいろりこともうゝやまぬ以大内代ゝ遠ゝろゝ乱朝宏
山ゝゝゝむ多ゝ者のゝ事ゝ者ゝ恵ゝ多ゝ所ゝ所ゝ多ゝ者ゝ朝常
浦ゝ所ゝゝゝゝゝむ無ゝゝゝ内ゝ代ゝ遠ゝ所ゝ月紅葉ゝ所ゝ盛登
来ゝ代ゝ波ゝゝゝ事ゝ乱ゝゝ所ゝ風ゝ乱ゝ者ゝ所ゝゝ朝置
所ゝ計ゝゝゝ所ゝ代ゝ所ゝゝゝ月ゝ乱ゝゝ所ゝゝ盛元
聖ゝ所ゝゝゝ市ゝゝゝゝゝ所ゝ代ゝ全道
乱ゝ所ゝゝ山里ゝゝゝ代ゝゝゝゝ朝要
弓矢ゝゝゝゝ大内代ゝゝゝ所ゝ者ゝ正益
冥ゝゝゝゝ内代ゝ武士ゝ方ゝ結ゝゝゝ朝祥
教法ゝ和法ゝゝ者ゝ所ゝ代ゝ良政

来ゝ所ゝ内代ゝゝゝゝ花ゝゝゝゝ正元
月者ゝ者ゝ者ゝ大ゝ者ゝ内代ゝ遠ゝ力ゝゝゝ紀恭
内ゝゝ内代ゝ所ゝ遠ゝ所ゝ者ゝ賢福
大ゝ内代ゝゝゝゝゝ者ゝ正起
所ゝ内代ゝゝゝ者ゝ者ゝ朝保

西平宗睦書

琉球國にみな其風俗の行はれ初
ハいまだすくなくの字ゆきと相和して話
のうち源為朝の子舜天王とあふ
ぎ孫ひさとよりそれ大和ことばあり
新國内を都として世をうけたり
いまに至りて遂に

[illegible]へ今此さの[illegible]ハいを
[illegible]ばいうされ[illegible]に事りて世事
[illegible]ハ濁[illegible]湾ぬの様
[illegible]沖縄集わ[illegible]なりむして
[illegible]その一編[illegible]
[illegible]おく[illegible]をうに

或ハ[illegible]に[illegible]
[illegible]久防[illegible]
[illegible]に行て[illegible]
[illegible]人この性情[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]雲上[illegible]国人[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治九年三月十日　渡忠秋識

朝教　大里王子
朝敷　今帰仁王子
朝昌　金武按司
朝春　大村按司
朝庸　上原按司
正全　國頭按司
朝要　大里按司
朝忠　浦添按司
朝保　宜湾親方
朝昭　浦添親方
朝昇　森山親方

朝直　伊江王子
朝尊　豊見城王子
朝明　摩文仁按司
朝置　護得久按司
朝睦　豊見城按司
朝春　大宜見按司
朝常　諸見里按司
朝義　真榮城按司
朝範　川平親方
安規　池城親方
盛綱　豊見城親方

正起　佐久真親方
盛記　安谷屋親方
朝直　内間親雲上
朝邦　宜湾親雲上
朝盛　森山親雲上
朝重　川平親雲上
朝昆　大宜見親雲上
真起　西原親雲上
安由　新城親雲上
朝伸　嶋袋親雲上
朝敕　豐村親雲上

盛奎　冨川親方
安信　東風平親雲上
盛英　親里親雲上
盛元　伊野波親雲上
安吉　佐渡山親雲上
朝意　保榮茂親雲上
朝信　伊江親雲上
朝教　阿波根親雲上
朝宜　多嘉良親雲上
朝亮　小那霸親雲上
朝宏　宜野湾親雲上

良政　瀬長親雲上
盛憙　山内親雲上
嗣職　名城親雲上
盛備　安村親雲上
盛舛　村山親雲上
正益　上間親雲上
安趙　野村親雲上
朝副　花城親雲上
盛恕　上里親雲上
朝舉　田崎親雲上
朝貫　與世川親雲上

賢貞　摩文仁親雲上
安通　名嘉山親雲上
政輔　佐久川親雲上
政朝　玻名城親雲上
朝恒　屋嘉比親雲上
由恕　上江洲親雲上
憲詮　仲尾次親雲上
盛振　安良城親雲上
孟宮　佐久本親雲上
得禮　具志頭親雲上
政弼　瀬名波親雲上

正善　國頭親雲上
朝張　國場親雲上
正元　與間親雲上
賢福　兼城親雲上
全道　又吉親雲上
良保　名護親雲上
朝睦　外間親雲上
朝珂　兼濱親雲上
宗睦　西平親雲上
良鄕　嘉数親雲上
朝隆　川平親雲上

由訓　上江洲親雲上
昌快　與世田親雲上
真裕　仲宗根親雲上
朝章　知花親雲上
紀恭　長嶺親雲上
唯延　福地親雲上
宗經　山城親雲上
賀快　松田親雲上
政隆　仲尾次親雲上
知恒　備瀨親雲上
賀雅　岸本親雲上

政吏　仲濱親雲上
有良　山田親雲上
知克　備瀨親雲上
真甫　儀間親雲上
昌詮　糸数筑登之
喜重　仲村渠筑登之
政房　仲尾次筑登之
政模　仲尾次筑登之
真定　元中寺
栄隆　伊地親雲上

宗相　田名親雲上
守敕　外間親雲上
賀信　比嘉親雲上
朝範　宜野湾里之子
政起　仲濱筑登之
盛登　仲村渠筑登之
政規　仲尾次筑登之
國山　蓮華院
朝昌　浦添親雲上
朝祥　小橋川親雲上

作者　百九名

歌　千四百三十九首

官許

明治九年六月刻成

琉球藩編輯人　宜灣朝保藏版

出版和歌山縣士族　音無盛臣

銀座三丁目拾三番地

京都三條通高倉東入　出雲寺文次郎

大阪心齋橋筋橋南二丁目　松村九兵衛

東京日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛

同　芝柴井町新道　千葉小次郎

賣弘所